

JEITA2014技術セミナー 「世界に挑む成長戦略」ーイノベーションが開く未来ー

■主催：関西支部運営部会・関西IT・ものづくり技術委員会

■担当部署：関西支部

■参加者数：約120名

概要

昨今は、イノベーションという言葉が多く使われているが、我々企業活動において、それが実感されているという感覚は乏しいと言えます。

本年度の技術セミナーでは、日本企業が新しい成長戦略を構築し、新しい未来を創生していくために、どう既成概念から脱却し、新しい視点に変えてイノベーションを起こしていくべきか、また生まれたビジネスをどうグローバルに競争力をつけていけるのか。加えて、海外から見たイノベーション戦略といった色々な視点で、3名の講師をお招きし、9月13日(金)に大阪歴史博物館講堂にて、標記をテーマに「2014技術セミナー」を開催しました。

最初に、神戸大学大学院 小川進教授から、「消費者から始まるものづくりの未来」というサブテーマでお話をされました。「物不足」の時代から「物あまり、情報あまり」の時代に変化した現在において、成長している種々の企業が、プロダクト・アウトの発想から、消費者視点からの発想を起点に、色々な工夫と新しいプロセスを取り込んでいる事例を紹介され、聴講者には非常に参考になるものでした。

次に、大成プラス(株)成富正徳会長様から、「金属と樹脂の射出一体成形技術」という画期的な技術を中心にそのビジネスをグローバルに展開していくために、「標準化」をビジネスツールとして展開されている状況をお話され、

このような、まだ、信頼性や実績の乏しい新しい技術・ものづくりに対し、日本企業がまだまだ消極的で、海外メーカが先行している状況に、大きな反省をさせられると共に、その技術情報の伝達に対するプロセスにも更なる工夫が必要である事を感じました。

最後に、UL LLC USAのZhou副社長から、3Dプリンタの現状と、これからのビジネス拡大の切り口、また市場が拡大するにあたっての、モノづくりの変化や、安全性の確保への課題、その対応へのサポート等のお話があり、USAでの3Dプリンタの普及に比べ、日本では遅れているとの実感を受けました。「もの余り」の時代において、新しいモノづくりプロセスの普及スピードが、グローバル競争力をつける一手段であろうと感じた講演でした。今回、3人の方のお話から、時代が大きく変化している中、日本企業の多くは、まだまだ従来のプロセスから脱却できてないのが現状かもしれません。しかし、その中でも新しい事へ挑戦し、グローバル・スタンダードを目指す企業が出てきているのも事実です。新しい技術・プロセスに、リスクはあります。しかし、従来培ったノウハウと新しい技術を融合させ、新しい製品・プロセスをつくりあげられるのも、日本企業だと思います。

今回は新しい取り組みとして、米国の講師をお迎えし、グローバルな視点での充実したセミナーになりました。

プログラム

○開会挨拶

関西IT・ものづくり技術委員会 委員長 原田 泰男 氏 (パナソニック株)

○「ユーザーイノベーション：消費者から始まるものづくりの未来」

神戸大学大学院 経営学研究科 教授 小川 進 氏

○「中小企業のイノベーションが生み出す日本の国際競争力の強化施策」

成富 正徳 氏 (大成プラス株) 代表取締役会長

○「Innovation and Challenges/Opportunities in 3D Printing and Additive Manufacturing」

Simin Zhou 氏 (UL LLC USA 副社長)

○閉会挨拶

関西IT・ものづくり技術委員会 副委員長 藪田 哲史 氏 (シャープ株)

